

# 令和5年度 基本施策評価シート

作成日 令和5年7月12日

基本施策	B3	平和の文化を醸成します		
2025年度に めざす姿	対 象		意 図	
	多くの人々が		当事者として、平和を考え行動している。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ				73ページ
基本施策主管課名	平和推進課	関係課名	被爆継承課	

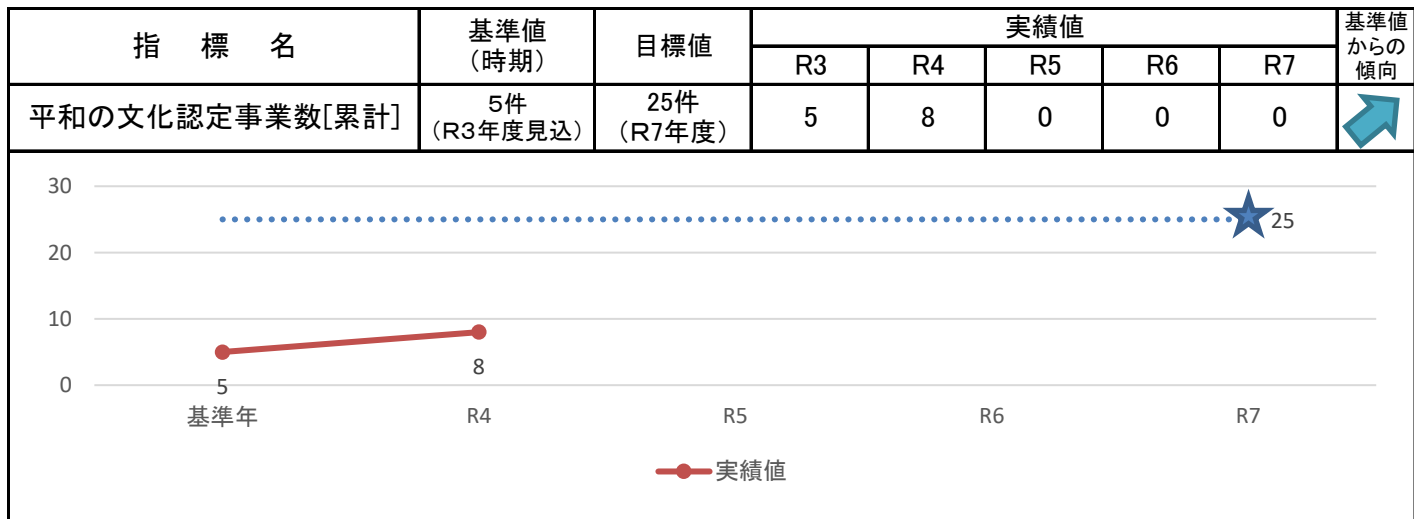
## 基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本施策の成果指標である「平和の文化事業認定件数」は、3件(令和4年度実績)で、2025年度(令和7年度)の目標値(累計25件)から換算した年間の増加目標値(5件)を下回っているものの、「平和の文化」を根付かせる取組みは徐々に進んでいる。 以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</li> </ul>
B3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ等広報媒体の掲載内容を充実させることにより、「平和の文化」の考え方や平和の文化キャンペーンの周知に努め、身近なところから平和への行動を促す機会を創出する。</li> <li>●平和の新しい伝え方応援事業により、時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする個人や団体を応援する取組みを進める。</li> </ul>
B3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ピースボランティア登録者の増加を図るため、SNS等を活用した情報発信により広く活動内容をアピールし、平和活動への興味を惹きつけや若者に届く情報発信と積極的な募集に努める。また、全国の青少年の平和意識の向上を図るため、ピースフォーラムへの参加者数がコロナ禍前の水準に戻るよう各自自治体への呼びかけに努める。(※再掲:B1-3)</li> </ul>

## 二次評価(施策評価会議による評価)

●	B3-1「①機会の創出」の「成果」について、平和の文化キャンペーン期間中に実施したイベントの数(21事業)のみを記載しているが、市民がより理解を深めることができるよう、具体的な事業名を例示できないか検討すること。
●	B3-1「①機会の創出」の「平和の新しい伝え方応援事業」について、現在は順調に進んでいるが、毎年同じような事業内容で続けていくと、将来的には形骸化する恐れがあるため、今後も事業を継続していくための仕組みを検討すること。

## 成果指標



年度別 主な取組内容
------------

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和の文化キャンペーン事業による平和にふれる機会の創出(21件)</li> <li>・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件)</li> <li>・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(4件)</li> <li>・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 664人)</li> <li>・沖縄派遣研修(少年平和と友情の翼)実施による若い世代の平和活動体験者の増(参加中学生数 29人)</li> </ul>			

## 令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	B3-1	スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動する機会を増やします		
2025年度にめざす姿	対 象		意 図	
	多くの人々が		スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動している。	
個別施策主管課名	平和推進課			

### 成果

#### ① 機会の創出

●9・10・11月を平和の文化キャンペーン期間に設定し、芸術やスポーツなど様々な分野を入口とした平和に関するイベント(21事業)を関連事業(※)として集約し周知したことにより、「自分に合った平和の取り組みを見つけるきっかけづくり」につながった。

(※)主な関連事業…9.21世界平和の祈り(写真参照:書道を通した平和発信)、2022長崎ベイサイドマラソン(写真参照:思い思いの平和のメッセージを記入したゼッケンを付けて走る)、平和の文化祭(平和を想起する商品の販売を行う平和マルシェなど)

●戦争体験のない世代に被爆体験や核兵器の問題を伝えていくために、平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付対象として4事業を選定し、その取り組みを支援したことで、新たな発想で時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする機会の創出につながった。

### 問題点とその要因

#### ① 機会の創出

●令和3年度から平和行政の柱の一つに据えた「平和の文化」について、内容や考え方などが十分に浸透しておらず、平和活動の裾野を広げるまでに至っていない。

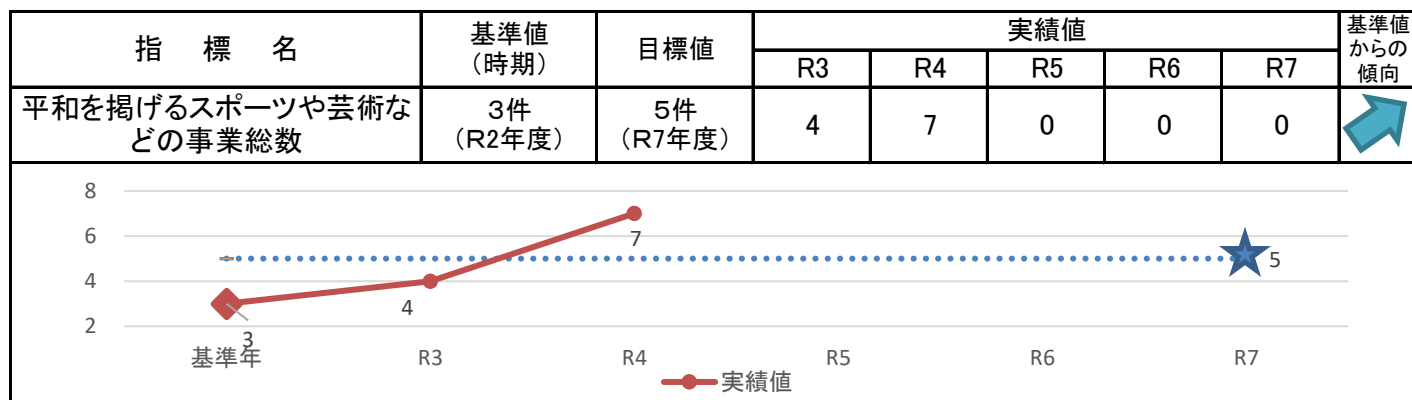
### 今後の取組方針

#### ① 機会の創出

継続 ●平和活動の裾野を広げるために、ホームページ等広報媒体の掲載内容を充実させることにより、「平和の文化」の考え方や平和の文化キャンペーン等の周知を強化し、平和の文化の醸成に向けた機運を盛り上げていく。

継続 ●平和の新しい伝え方応援事業により、時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする個人や団体を応援する取り組みを進める。

### 成果指標



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
平和の文化キャンペーン 関連事業数	21件 (R4年度)	30件 (R7年度)	—	21	0	0	0	→

※令和4年度から平和の文化キャンペーン期間を設定したことにより、「平和の文化」の醸成に、より一層つながりやすいキャンペーン関連事業数を代替指標とした。

### 施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	「平和の文化」醸成事業費	平和推進課
	事業目的	スポーツや芸術など様々な分野を入口に、多くの人々が身近なところから平和について考え行動し、日常の中に平和の文化を根付かせる。	
	事業概要	平和活動の裾野を広げるための取組みを推進する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和の文化キャンペーン関連事業(21件)</li> <li>平和の文化認定事業(3件)</li> </ul>	
	決算(見込)額		2,095,737 円



平和の文化キャンペーン関連事業  
(2022長崎ベイサイドマラソン)



平和の文化認定事業、平和の文化キャンペーン関連事業(9.21 世界平和の祈り)

2	事業名 担当課	平和の新しい伝え方応援事業費	平和推進課
	事業目的	戦争体験のない人に被爆の実相や核兵器の問題を伝えていくための取組みを推進することで、被爆の継承や平和発信を効果的に行う。	
	事業概要	新しい発想で多くの人々に届く、時代に応じた平和の新しい伝え方の取組みに補助金を交付する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付(4件)</li> </ul>	
	決算(見込)額		821,339 円



平和の新しい伝え方応援事業、被爆ピアノで繋ぐ ひろしま・ながさき

## 令和5年度 個別施策評価シート

個別施策	B3-2	若い世代を中心に平和の輪を広げます				
2025年度にめざす姿	対 象	意 図				
	若い世代が	平和の大切さを理解し、伝え、広げるための活動をしている。				
個別施策主管課名	被爆継承課					

### 成果

#### ① 人材の育成と活動機会の拡充

●被爆の実相の継承と平和意識の高揚を図るため、8月9日の平和祈念式典にあわせて開催するピースフォーラムにおいて、全国から集まる平和使節団の青少年251人と長崎の青少年ピースボランティア56人が共に平和学習や意見交換を行ったことにより、被爆の実相と平和の尊さを学び交流を深めることができた。また、ピースボランティアの育成において、平和活動等を年45回実施し、延べ664人が参加したことで活動の幅が広がった。  
〈※再掲: B1-3〉

●「少年平和と友情の翼」において、中学生29人を沖縄県に派遣し、長崎の被爆の実相や沖縄戦の被害について学び、地元の生徒等との交流を行うことで、平和意識の高揚につながった。また、「少年平和と友情の翼」参加者のうち16人が、市内中学校の代表が参加する平和学習発表会において、沖縄派遣研修成果を発表したことで、広く取組みを周知することができた。

### 問題点とその要因

#### ① 人材の育成と活動機会の拡充

●少子化による若者の総人口が減少するなかで、ピースボランティアの登録者数も減少傾向にあり、市内全域の高校生及び大学生への周知や働きかけを行っているものの、登録者増につながる十分な成果が得られていない。  
〈※再掲: B1-3〉

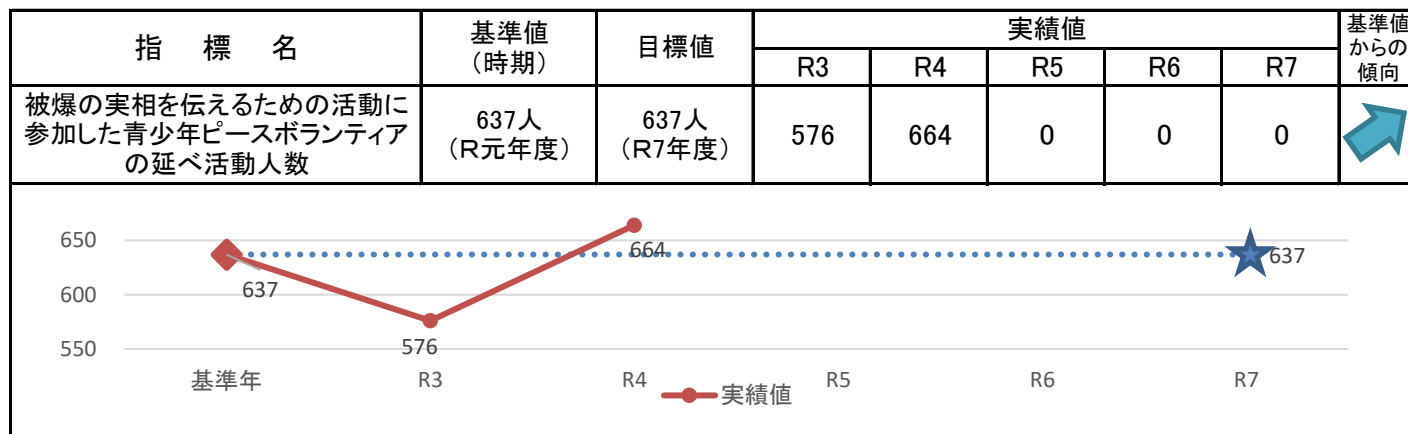
### 今後の取組方針

#### ① 人材の育成と活動機会の拡充

**継続** ●ピースボランティア登録者の増加を図るため、SNS等を活用した情報発信により広く活動内容をアピールし、平和活動への興味の惹きつけや若者に届く情報発信と積極的な募集に努める。  
〈※再掲: B1-3〉

**継続** ●ピースボランティアの最大の活躍の機会であるピースフォーラムの充実を図るため、新型コロナウイルスの感染拡大により減少した全国からの参加者が以前の水準に回復するよう、各自治体への呼びかけを強化し、平和に関心を持つ青少年の拡大につなげる。  
〈※再掲: B1-3〉

### 成果指標





施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	青少年ピースボランティア育成費	被爆継承課
	事業目的	青少年の平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るため、被爆の実相や戦争について学び、さまざまな視点から平和について考え、行動する機会を提供する。	
	事業概要	中学生を除く15歳から30歳未満の青少年を対象に、青少年ピースフォーラムの企画、運営やボランティア活動のほか、さまざまな視点からの被爆の実相や、それらの発信の仕方を学び、若者目線での情報発信などを通して次代を担う青少年の育成を行うもの。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和学習会の実施 45回(参加者数:延べ664人)</li> <li>・県外派遣研修 2コース(福岡県コース・沖縄県コース)</li> <li>・出前講座及び被爆遺構ガイド等の活動 13件ほか</li> </ul>	
	決算(見込)額		6,436,101 円



ピースボランティアによるピースフォーラムの運営

2	事業名 担当課	青少年平和交流費 (少年平和と友情の翼)	被爆継承課
	事業目的	市内の中学生の平和意識の高揚を図るため沖縄に派遣し、被爆の実相や沖縄戦の被害について学び、地元の生徒等と交流する中で、同年代との友情を深める。	
	事業概要	3年に1回、市内の中学生を対象として、沖縄県内の戦跡や平和関連施設の見学、那覇市の中学生との交流や双方の戦争被害を伝え合うなど、「学び、伝える」研修を実施するもの。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修 (令和4年7月10日)</li> <li>・沖縄派遣研修 (令和4年8月18日～20日)</li> <li>・平和学習発表会での報告会 (令和4年8月25日)</li> </ul>	
	決算(見込)額		6,292,207 円



沖縄派遣での戦跡の見学